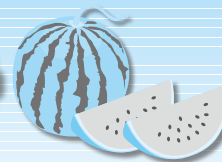


委員会活動報告



総務常任委員会

防災について

4月26日

安心安全課

洪水ハザードマップは、荒川、利根川の各河川管理者が公表した想定最大規模降雨による浸水想定区域をもとにしたものへと改訂されました。また、地震ハザードマップを最新のデータに改訂し、洪水と地震をあわせて手に取りやすい一冊の冊子形式に変更しました。

新たなハザードマップは、表紙が黄色の目立った冊子となっており、浸水危険箇所や避難場所が一目でわかる作りになっています。さらに、揺れやすさマップ、地震の危険度など地震災害への準備についても記載されています。日常生活で意識的に防災を考える機会が少ないので、ハザードマップを活用していくことが大事です。危険地区が分かっていたとしても、その対策を講じていなければ意味がないため、自主防災組織や行政区などで新

たなハザードマップの活用、周知を積極的に図っていくことが必要です。

また、白岡市と君津市では、今年3月に災害時相互応援協定を締結しました。この協定は、災害時の物資の提供や、職員や車両の派遣などが主なものです。両市では互いの防災訓練に参加するなど、交流を図っていくということなので、さらなる公助の強化を期待します。



安心安全課から説明を受ける

産業建設常任委員会

土地区画整理事業について

4月27日

羽生市

岩瀬土地区画整理事業は、羽生市で14地区目となる、商業系・住宅系整備の組合施行による土地区画整理事業として平成8年に認可され、その後4回の事業計画変更を経て現在も事業継続中です。

経済情勢の影響を受け、保留地処分が進まず資金が不足し、事業期間も延長され、市の補てんもかなり多額になっていますが、工事の様子を見ると、地域が変化していくさまを視覚でとらえることができ、事業の効果を感じることができました。

土地区画整理事業は、国県の認可によるものであり、一度認可された内容は簡単に変更できるものでもないことを考えると、時代の変化や経済状況、地域の状況などを考慮し、先を見据えて事業を推進することが大事であ

ると再認識するものでした。

今後人口減少時代に移ると予測されており、事業期間が長期にわたり、次世代に財政負担を残すことにもなることから、事業計画や規模などを慎重に検討する必要があると考えます。



岩瀬土地区画整理組合を視察